

米国科学工学医学アカデミー、NNSA国家安全保障研究所における
ピアレビュー及び設計コンペに関する報告書を発表（10月15日）

米国科学工学医学アカデミー (National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine) は、1992年の核実験一時停止以降に強化された、ロスアラモス国立研究所 (Los Alamos National Laboratory: LANL、ニューメキシコ州)、ローレンス・リバモア国立研究所 (Lawrence Livermore National Laboratory: LLNL、カリフォルニア州)、及び、サンディア国立研究所 (Sandia National Laboratories、ニューメキシコ州・カリフォルニア州) における、国家の核保有の安全性・安全保障・有効性の確保と、人材に必要な科学・工学デザイン・イノベーション能力の維持を目的とした技術評価とピアレビューに関し、議会の要請を受けて作成した報告書「国家核安全保障庁国家安全保障研究所におけるピアレビュー及び設計コンペ (Peer Review and Design Competition in the NNSA National Security Laboratories)」を発表した。これによると、ピアレビュー・プロセスは健全且つロバストで、兵器評価・認証における信頼性の向上、兵器の物理特性に関する理解の向上、兵器の老朽化への対応、及び、備蓄の耐用年数延長プログラムのための低経費でのアプローチの特定に貢献していることが明らかにされた。その反面、研究所間での設計コンペの状態はロバストでなく、1992年以降、完全な設計コンペが行われていないことが判明した。同報告書は、設計コンペは冷戦時代に兵器備蓄の安全性及び信頼性に対する自信を高める上で役立ったことから、同コンペを再開することにより、有能な人材の養成・維持に繋がり、進化する脅威に対応する上で必要な能力喪失を回避すると共に、米国の核抑止力維持に関して関係者に信頼感を植え付けることになると指摘している。

なお、本報告書は、<<http://www.nap.edu/read/21806/chapter/1>>から閲覧可能。

The National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine, Design Competitions Needed to Maintain Capable Workforce and Nation's Nuclear Deterrent
<http://www8.nationalacademies.org/onpinews/newsitem.aspx?RecordID=21806>